

1 研究主題

ふるさと匹見を愛し、自ら進んで活動する児童生徒の育成
～へき地と同一校舎の特性を生かした連続性を大切に～

2 主題設定の理由

子どもたちは、匹魅力【ひきみりよく】(ひと、木・森、みず)を日々の生活や学習の中で感じ取っている。また、匹見力【ひきみりよく】(尊重、創造、自律)を高めるため様々なことに取り組んでいる。本校は小中同一校舎となり3年が経過した。児童生徒ともに、小、中学校教員も今まで以上に多くの小中交流をふまえた経験・体験をすることができた。また、校外に目を向けると、教科や学校行事などを通して地域の方と関わる機会が多くある。

昨年度まで2年間の研究では、小学校や中学校それぞれに、自分の思いや考えを伝え合いながら学びを深めていく児童生徒の育成に取り組んだ。学習活動の中で対話を進め、タブレット端末を活用し、自分なりの理由・根拠を入れて説明するなど、自分の思いを伝える姿に成長が見られた。特に中学校では、「“見通し→行動→振り返り”のAARの連続プロセス」に重点的に取り組み、生徒が自らを見直し、自律(自分で考え行動を起こすこと)した生活を送る姿が増えた。

そこで、自分の思いや考えを伝えることの学びを大切にしながら、今年度からは今まで以上に、へき地の特性を生かし、ふるさと匹見の教育資源を活用したい。そして各教科を含めた学習活動での児童生徒の成長を目指していく。

3 研究仮説

地域の様々な人と関わること、小学生と中学生が学習の様々な場面で関わり合う(活躍する姿を見合う)こと、小中学校の教職員が9年間を見通し連携した学習活動に関わること、などが展開されれば、ふるさとを愛し自ら進んで活動する児童生徒が育つだろう。

4 研究の内容と具体的な取組

(1) 自然や人など地域を生かし、主体的に学ぶ場面を設定する。

①各教科・総合的な学習の時間など、単元や学習活動を絞って効果的な取り組みとなるよう配慮する。

②保育所や公民館等、無理なく連携できるところでの学びを探す。

(2) 同一校舎の環境を生かし、異学年はもちろん児童生徒が相互に関わる場面を設定する。

①匹見カーニバル(運動会)・匹見フェスタ(学習発表会・文化祭)等行事を中心として、効果的な取り組みとなるよう配慮する。

(3) 小学校教職員と中学校教職員が一体となって児童生徒を育てる環境を醸成する。

①一つの職員室であることを生かし、合同朝礼、合同職員会等での情報共有の場をできるだけ設ける。

②小から中、中から小への相互の乗り入れ授業を設定し、また、教職員の専門性を生かし、児童

生徒にとっての学びの連続性を実感させる。

(4) AARと対話を大切にすること



↑教育センター研究成果物
「ROUTE5」より引用

	各教科・学習 等	行事 等	日常生活 等
A	めあてを考える、知る 予想する など	どうしたいか どうなりたいか など	行動すべき時間・役割・ 内容を考える など
A	思考する、やってみる 解く など	話し合う 実行する など	活動する 遊ぶ 役割を果たす など
R	振り返りをする 次の課題を見つける もっとやりたいことを考 える など	振り返りをする 友達の気持ちを考える 次回してみたいことを考 える など	振り返りをする 他にしたいことを考える など

児童生徒がAARサイクルを通して様々な活動を続ける中で、ICT等の活用も大切に。同時に、対話する場面を計画的に仕組んでいく。

5 研究年間計画

時期	具体的な取組	
4月	小・中の今年度の教育課程の策定	小・中研究主任による計画協議
5月	職員会で研究計画の起案・検討	小・中研究主任による計画協議
6月	15日 匹見カーニバル(運動会)	小・研究情報交換会 中・研究情報交換会
7月	小・中研究主任による協議	小・研究情報交換会(4~7月のまとめ)
8月	個人研修 中・研究情報交換会(4~7月のまとめ) 伝達研修会(必要に応じて)	
9月	小・中研究主任による協議	小・研究情報交換会 中・研究情報交換会
10月	益田市教育委員会訪問指導・研究協議 小学校 国語 中学校 数学	
11月	9日ひきみりよくフェスタ(学習発表会・文化祭) 小・中研究主任による協議	
12月	小・研究情報交換会(8~12月のまとめ) 中・研究情報交換会(8~12月のまとめ)	
1月	小・中研究主任による協議	小・研究職員会(情報共有したことのまとめ) 中・研究職員会(情報共有したことのまとめ)
2月	小・中研究主任による協議	小・研究職員会(次年度以降の方向性決定) 中・研究職員会(次年度以降の方向性決定) (必要に応じて、小中での合同研究職員会)
3月	小・中研究主任による協議	

6 検証の手立て

- 学習意欲や授業に関するアンケート(7月と12月の実施予定)
- 訪問指導での協議・指導助言

○ 研究職員会と実践での、見通し、実践、見直しと修正の繰り返しの蓄積